

△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△Ⅱ

鹿角手をつなぐ親の会

情報誌

令和元年10月・第25号

映画「星に語りて☆Story Sky」を鑑賞



きょうされん40周年記念映画が9月7日鹿角市交流センターで上映されました。

このことについては、前号のあじさいⅡで皆様にお知らせしていたこともあり、上映会では会員15名が鑑賞されました。

ほかにも、福祉プラザ利用者や出発の家、青垣の利用者と職員、福祉施設等の職員や市民の方々が鑑賞されていました。

「星に語りて」は、2011年3月11日東日本大震災～障害のある人と支援者の物語。上映時間2時間に及ぶ大作で、多くの自治体や公益団体、報道機関が後援しています。

上映に先立ち澤田修明きょうされん全国理事が挨拶し、上映の趣旨などを説明された。

津波により利用している作業所等の施設から消えてしまった障害のある人たち。

各地の避難所をまわっても、障害のある人の姿がほとんど見当たらないという。

全国障害者ネットワークでは、東京、秋田、岩手、福岡などのグループが連携して支援活動をはじめるが、立ちはだかる障壁があった。

それは個人情報保護を理由に開示されない「障害のある人」の情報だった。

秋田県手をつなぐ育成会でも、3・11のあと、障害のある人の情報を把握できない・・・法律によって守られる人権と一刻を争う人命救助との狭間で苦しむ支援者たちの苦悩を知り、この厚い障壁を打ち破る手立てを模索し、きょうされん秋田、秋田県知的障害者福祉協会など障害福祉6団体で構成する防災に係わる協議会を立ち上げ、行政には障害者の情報開示と避難先確保を要請。自らも避難所での生活、保存用ヘルプカードの作成などを内容とした「知的障害のある人と家族の方へ・防災ハンドブック」を作成し、会員へ配布しています。

この映画を見て、鹿角でも8年前には停電、ガソリン確保、情報入手などで難儀したこと思い起こす一方、筆舌に尽くしがたい体験をされた岩手、宮城、福島の被災者が一日も早く被災前の生活に近い日常を取り戻せるよう強く願いつつ、災害大国といわれる我が国では、今年も各地で台風、大雨、地震に日常生活を破壊されています。

今は「災害はいつでも、どこへでも襲ってくるもの。」だと肝に銘じ、自分の命は自分で守らなければならぬことを教え、家庭では身の回りの安全と備蓄品に気を配り、防災、避難訓練もやれれば安心できるのではないしょうか。

差別のない共生社会をめざそう

第61回 秋田県大会・横手で開催

令和最初の第61回手をつなぐ育成会・秋田県大会が8月4日、昨年9月鹿角からバトンを引き継いだ横手市で開催されました。

鹿角からは本人5名と会員9名が参加しました。 横手市までは遠いので前泊することとし、3日9時、市役所前を出発。マイクロバスで高速道を北上から秋田道へ入り横手へ12時に。

横手城



秋田ふるさと村で横手やきそば、十文字ラーメンなどそれぞれ好みの昼食を済ませて、村内を自由行動。ふるさと村を出て、横手城公園を散策したり天守閣へ上がり、山と川のある町横手市内を一望してからホテルに着き、さっそく温泉に入る。

広く豪華なツインルームに感動していました。

貸し切りの広間で夕食、懇親会。横手の地酒と三梨牛に舌鼓をうちながら会話も弾みました。

4日朝、すぐ近くの大会会場へ移動しました。

知事表彰＝山崎明子さん

受賞おめでとうございます。

会長表彰＝小田島嘉子さん

ますますのご活躍を！

大会は10時から開会式典がはじまり、山崎さんが秋田県知事表彰、小田島さんが秋田県手をつなぐ育成会会長表彰を受賞されました。 山崎さんが都合により欠席されたので智晴君が代理受賞されました。

アトラクションは県立横手支援学校生による「よさこいソーラン」が会場を興奮させ、大きな拍手とペンライトで盛り上りました。

午後からは、シンポジウムと本人大会（お楽しみコースと社会見学コース）がはじまり、本人たちは音楽療法を楽しみ、リニューアルされたまんが美術館を見学して交流を深めました。

3時過ぎに会場を出発。農免道路や県道を進み田沢湖、玉川を通り無事に鹿角へ着きました。

今年の9月第三日曜日は15日だったので例年より少し早い元気フェスタとなりました。

好天に恵まれて人出も多く、鹿角にもこんなに子供達がいるのかと思われました。 あんず部会では今年も喫茶店を開店するために早くから準備を進め、アイディアを凝らした店づくりをして開店を待ちました。 暑いためアイスコーヒーの注文が多く、材料の買い足しをするほどでしたが、商品の単価を安く抑えているため、売り上げはあまり伸びませんでした。〈来年の課題に・・〉

元気フェスタ
盛会裏に！